

令和7年度 学力向上指導改善プラン

学校教育目標 やさしく かしく たくましく  
～豊かな自分づくりと共に生きる人間の育成～

目指す子どもの姿 人とつながり、課題解決に向かう子どもをめざして  
～問いを追求することを通して、学びのサイクルを確立させる～  
変容を目指す資質・能力 a知識及び技能 b思考力、判断力、表現力等 c学びに向かう力、人間性 d情報活用能力  
f学び続ける姿勢 gコミュニケーション能力

三田市立ゆりのき台小学校  
学校長 松田文貴  
研究主体【研究推進】

前年度			4月(※全国学力・学習状況調査の結果などを受けて年度途中で変更する場合は削除、追記部分を赤字で修正)			2～3月 年度末評価			
学力向上に向けた重点的な目標	年度末評価 (前年度の成果と次年度に向けた課題等)	評価	継続性	学力向上に向けた重点的な目標 (変容を目指す資質・能力)	成果となる目標 (指標となる数値等)	具体的な行動目標 (成果目標達成のための具体的な手立て等)	教員 評価	(今年度の成果と来年度に向けた課題等)	評価
①基礎・基本の育成を図り、学習意欲を高める	①基礎・基本の育成を図り、学習意欲を高める Bについては放課後の時間を活用して行うことは難しいが、各学級で適宜隙間時間等を利用して補充学習を行った。夏休みには学力補充を行い積極的に取り組んだ。その他のA,C,D,Eについては、校内研究を推進し目標達成に向けて取り組むことができた。	A		①基礎・基本の育成を図り、学習意欲を高める (a知識及び技能) (b思考力、判断力、表現力等) (e課題解決能力)	○学期末の算数や漢字のまとめのテストで9割以上の定着をめざす。 ○研究会アンケートにおいて学びの積み上げに対する肯定的な評価を得る。	A:漢字や計算の定着度を評価し適宜プリント等で補充する。 B:学期末定着度テスト(漢字・計算)を実施し目標到達ラインに届くまで放課後等に補充学習を行う。 C:学習の中にめあてを書いたり学びをふり返ったりするなど「見える化」する活動を位置づける。 D:「ゆりのきスタンダードノート編」にもとづくノート作りを継続する。 E:「学び方開き」の授業や研修を行い、学びの連続性を重視する。			
②本に親しむ子の育成を図る	②本に親しむ子の育成を図る 全校一斉の読書タイムや家族読書を継続している。学校司書や図書ボランティアと連携して読書活動を推進することができた。今年度の読書アンケートでは、全体で「好き」「どちらかといえば好き」が約8割以上であるが、学年が上がることによって読書時間が短時間化している。家族読書の取り組みに差が出ないよう「読書カード」を作成する。A～Fの取組は今後も続けていく。	B		②本に親しむ子の育成を図る (d情報活用能力) (f学び続ける姿勢)	○子どもアンケートで「学校外でも進んで読書をしている」と答える児童の割合の現状維持(8割以上)をめざす。 ○子どもの読書活動を進めるうえで、環境整備を発達段階に応じて行う。	A:全校一斉読書タイムを継続する。 B:毎週の10分間読書や毎月23日の「ビーマーっ子読書の日」に、読んだ本の題名や感想を読書通帳に記録させる。 C:学年の発達段階に応じた図書を学年フロアの学年図書館に入れる。 D:学校司書や図書委員会と連携して学校図書館の稼働率を上げる。 E:図書ボランティアによる読み聞かせ・ブックトークを継続する。 F:発達段階に応じた環境整備を行い、読書に親しむよう工夫する。			
③コミュニケーション能力の育成を図る	③コミュニケーション能力の育成を図る 学校評価アンケート(教員)の「体験的な学習を積極的に取り入れ、自ら学ぶ力や思考力を高める指導方法の工夫ができています」の項目では肯定的な意見が8割以上であったことから、今後もA～Dまでの取組を継続していきたい。Bは、異学年に学習発表の場を設定したり、地域の方と調べ学習をしたりできた。Cの一人一授業の授業公開については難しさもあることから、学校の規模に応じて学年・学団・全体での研究を進めていく。	A		③コミュニケーション能力の育成を図る (gコミュニケーション能力)	○学校評価アンケート(職員)の教科学習「体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れ、自ら学ぶ力や思考力を高める指導方法の工夫ができています」の項目で研究の成果を問い、肯定評価8割以上をめざす。 ○他校の先生より研究会アンケートにおいて「対話的」をキーワードに肯定的な評価をめざす。	A:研究テーマ「人とつながり、課題解決に向かう子どもをめざして～問いを追求することを通して、学びのサイクルを確立させる～」に沿った授業づくりを行う。 B:学習の中に「異学年交流」や「地域の方々との交流」を取り入れ、身につけた力を活用する場の設定を行う。 C:授業を公開し合い、全職員で授業力向上に努める。 D:研究会で対話的な学習が効果的に作用している学習場面を公開する。			
④豊かな心の育成を図る	④豊かな心の育成を図る 学校評価アンケート(職員・保護者)や子どもアンケートの「子どもの育ち」(やさしく)の項目では、子どもは肯定的な評価である一方、職員・保護者は肯定評価は8割に満たなかった。「特に物を大切に使う」、「相手の気持ちや立場を考えて行動している」という項目で低かったため、A～Eの取組に加えて日常的に学級指導や委員会活動を通じて呼びかけていきたい。	C		④豊かな心の育成を図る (c学びに向かう力、人間性)	○学校評価アンケート(職員・保護者)や子どもアンケートの「子どもの育ち」(やさしく)の項目で肯定評価8割以上をめざす。	A:「学校いじめ防止基本方針」にもとづき、いじめ未然防止、早期発見・解決のための取り組みを行う。 B:「あいさつ運動」を実施し、進んであいさつできる児童をめざす。 C:「ビーマーっ子の歌」の歌詞や学校教育目標をもとに、子どもたちがめざすビーマーっ子の姿を各学級・各学年で具現化し、学年目標とする。 D:学校外の教育力を活用し、多様な生き方・考え・表現にふれさせる場を設定する。 E:「生きる力」(こころはばたく)「心きらめく」「心ときめく」を活用して道徳・人権教育の充実を図る。			
⑤生活習慣の確立をめざす	⑤生活習慣の確立をめざす 子どもアンケートの「自分で使ったところは最後まできれいに掃除する」では、前期は、肯定評価の割合が高かったが、後期になると約10%も下がった。Dのゆりのきスタンダード掃除編の徹底ができていなかった。日常的に学級指導や委員会活動を通じて呼びかけていきたい。今後もA～Cの取り組みを継続していきたい。	B		⑤生活習慣の確立をめざす (c学びに向かう力、人間性)	○子どもアンケートで、正しい姿勢・持ち物への記名・後片付け・掃除ができていないかを確認する。	A:自立した生活(早寝・早起き、整理整頓、時間を守る、礼儀)ができる児童をめざす。 B:よい姿勢(話す・聞く姿勢、鉛筆の持ち方、靴の履き方)を身につける。 C:善悪の判断ができる子を育成する。 D:ゆりのきスタンダード掃除編(お掃除3つの約束)の徹底と、掃除を積極的にする子をめざす。 E:定期的にはロッカーやボックスの整理整頓の声かけをし、片付けの習慣を身につける。			
⑥健やかな体づくりを図る	⑥健やかな体づくりを図る 子どもアンケートの「運動遊びに取り組んでいる」の項目は、肯定評価の割合が8割以上で高かった。今後もA、Bの取組を継続していきたい。	A		⑥健やかな体づくりを図る (a知識及び技能) (b思考力、判断力、表現力等) (c学びに向かう力、人間性)	○子どもアンケートで、運動遊びができていないかを確認する。	A:外遊びの推奨とさまざまな遊びが体験できるよう環境整備・時間確保を行う。 B:栄養教諭と連携を取りながら食育を推進する。 C:体育授業の充実			
⑦学校・家庭・地域との連携と協働を図る	⑦学校・家庭・地域との連携と協働を図る 学校評価アンケート(職員)からは、約9割の肯定評価が得られた。今後もA～Eの取組を進めるとともに、より一層地域との連携を深めていけるよう、各学年の年間カリキュラムに位置づけ、校内コーディネーターや学年コーディネーターを中心に計画的に取り組んでいきたい。	A		⑦学校・家庭・地域との連携と協働を図る (gコミュニケーション能力)	○学校評価アンケート(職員)学校運営「学校施設を地域の活動のために開放したり、ゲストティーチャーを活用する等、地域と児童が共に学ぶ環境づくりや授業づくりをしている」の項目で9割の肯定評価を維持する。	A:コミュニティスクールの推進を図るために、学校運営協議会を年間を通して計画的に開催し、学校評価の項目や結果を共有する。 B:「ゆりのき子どもネットワーク」との連携を図るために窓口となる校内コーディネーターをおき、ネットワーク会議に参加する。 C:児童に地域行事に参加する意義を伝え、積極的に参加するよう呼びかける。 D:学校支援ボランティアと連携した授業の工夫を行う。 E:学校が「めざす子どもの姿」を学級集会や教育課程説明会などで提示し、家庭での協力を求める。			

○「教員評価」は教員対象に実施した自己点検調査結果(0～4の5段階評価)の平均値  
○「評価」は年間の取組について、4段階で評価  
A・・・十分に達成 B・・・おおそ達成  
C・・・達成が不十分 D・・・ほとんど達成できず